

GRAZIA

“グラッツェ”

“グラッツェ”とはイタリア語で“ありがとう”の意味。陽気なラテン民族の言葉に倣って、素直に感謝の言葉を口にできる明るい場作りを、本学科は心がけています。

特集 国際コミュニケーション学科 卒業生 その後…

在学生、教員ともに、気になるのが卒業生のその後の活躍。今回久しぶりに来校してくれた卒業生数人に、「今、学生時代を振り返って」と「現在の状況」をテーマに、話を聴かせてもらいました。

さて、学科の卒業生たち、どんな道筋を歩んでる？



Y.Oさん・♂

2011年大学院卒業。
現在Willson Learning Worldwide(株) (人材開発コンサルティング会社)勤務

——今やっている仕事内容を教えてください

[Y.O] 会社の研修を開発したり、インストラクターとして実際に教えたりする仕事をしています。研修の内容は“営業力強化”“マネジメント力育成”“グローバル人材育成”が主です。

——どんな学生でしたか？

[Y.O] とりあえずなんでもやってみようと、いろんなところに顔を出していました。

——現在のところに仕事が決まるまで、就職活動はどうでしたか？

[Y.O] 就職をゴールとせず、その先に自分がやりたいことは何かを考えながら動きました。就活に「絶対これだ！」という答えはなく、100人いたら100通りのやり方があります。なので自己分析をしつつ、いろんな人に話を聞いて、自分に合うやり方を見つけていきました。

——大学生の頃と比べて、今の自分が変わったなと思えることはありますか？

[Y.O] 次の5つが変わったなと思います。1.社会的責任 2.時間感覚 3.金銭感覚 4.自分に対する周囲からの評価 5.成長力です。

まず、社会的責任については、学生の間は、最終的には親や先生がなんとかしてくれるだろうという甘えがあるわけですが、社会人になるとすべての責任が自分。起こす行動の一つ一つに重みが出てきたと思います。

時間感覚も大きく変わりました。学生の間は時間は無限にあると思っていたわけです

が、社会人になると仕事で3分の1は拘束されます。睡眠や食事など日々の活動に必要な時間を考えると、残っている時間の貴重さが逆に際立つようになりました。同時に社会人になると収入が一気に増えます。だからこそ、使い方や管理も以前より深く考えるようになりました。

自分に対する評価の方法も変わります。学生時代はテストの点数が評価の全てでしたが、“仕事”にはいわゆる“答え”がありません。だからこそ、平日頃の仕事ぶりや活動など、総合的な観点から評価が決まります。

就職活動をする中で、『成長できる仕事に就きたい』という声をよく聞きますが、私はどの仕事に就いても成長はできると思います。私自身の一番の成長は、“ゴールからの逆算で物事を考えられるようになったこと”。学生時代は提出期限ぎりぎりにレポートを提出したりしていましたが、仕事をするようになって目標から逆算した上で、今すべきことをやれるようになりました。計画的に物事を進められるようになったので、直前で焦ることもほぼ今はありません。

——次に大学生活について聞かせてください。学科在籍中の活動の中で、これをおいて良かったと思うものはなんですか？

[Y.O] 留学とサマースクールです。これがなければ、今の私はないと言っても過言ではありません。

——もしも大学一年生に戻れるとしたら、こ

それをやろうと思うことは？

[Y.O]旅行です。社会人になるとまとまった時間が取れないので。

——**学生中に得た語学力は、現在の仕事に生かされていますか？**

[Y.O]仕事でとても役に立っています。会社は45カ国でビジネス展開しているので、海外からのメールを受けたり、テキストを英訳することがあります。英語ができるからと、他の外国人社員とのコミュニケーションサポートも任せてもらえるようになりました。

他社の人事担当者も口を揃えて言う企業の課題が、日本人の低い英語力。現在、どの企業もグローバル人材育成には力を入れていすから、大学在籍中に英語を“道具”として使えるようになっていけば、とてもいいと思います。

——**学生時代にこんなアルバイト、またはサークル活動をしておけば良かったと思うものは？**

[Y.O]接客業です。スタバとかやってみたかったな(笑)。ボランティア活動をしているサークルに参加していたのですが、そこでの体験も貴重なものでした。もしそれに入っていな

ければ、自分たちでビジネスを考えるサークルに入ってみるのも良かったと思います。

——**後輩たちへ。在学中に『これをやっておいたらいいよ!』というものを5つを挙げてください。**

- [Y.O]**
- 1.サークルに入る。学科を越えた人間関係から得る気づきは多いです。
 - 2.いろいろなバイトを試みる。自分の適職を見つけるフィルターを増やすことができます。いろいろな種類をやることによって、適性がわかってきます。
 - 3.サマースクールに参加する。自分の視野が広がります
 - 4.死ぬほど遊ぶ。社会人になると時間が制限されるので、遊び尽くして。
 - 5.海外一人旅をする。準備もせず自由に海外をぶらぶらするのは貴重な体験。私はベトナム一人旅をやりました。

目標と現実とのギャップが大きく、社会人になってからは毎日が勉強だと語るY.Oさん。「今振り返ると、大学時代の宝物は“いろんな経験をしたこと”。進路に迷うこともあるかもしれませんが、その場合には一人で悩まず、周りの人に相談してください(もちろん私でも構いません。笑)。きっと違う視点からの新しい発見が、自分の視野を広げてくれますよ」。

最後に今後の道筋は？と訊くと、こう答えてくれた。

「今の仕事を2年やったら、海外の大学院でMBAを取るのが目標です!」



W.Oさん・♀

2009年大学卒業。
現在(株)ミシュランタイヤ(外資系タイヤメーカー)勤務

——**今やっている仕事内容を教えてください**

[W.O]主に、社内の営業マンたちへのセールストレーニングが仕事。その中には、管理やフォローといった業務も含まれます。

——**どんな学生でしたか？**

[W.O]ものの好き嫌いは激しかったのですが、好奇心は旺盛でした。

——**現在のところに仕事が決まるまで、就職活動はどうでしたか？**

[W.O]とにかくカッコイイ仕事に就きたかった。活動していた当時は大変だと感じましたが、過ぎてしまえばたいしたことなかったな(笑)と思います。

——**大学生の頃と比べて、今の自分が変わったなと思えることはありますか？**

[W.O]組織に属する人間としての責任感が出たように思います。

——**次に大学生活について聞かせてください。学科在籍中の活動の中で、これをおいて良かったと思うものはなんですか？**

[W.O]様々なバックグラウンドを持つ人々と接する機会があった“留学”や“イベント”“ボランティア活動”は貴重な体験でした。

——**もしも大学一年生に戻れるとしたら、これをやろうと思うことは？**

[W.O]図書館の共有施設をもっと活用して、読み書きの場数を増やします。

——**学生中に得た語学力は、現在の仕事に生かされていますか？**

[W.O]海外出張の時にはもちろんのこと、海外からの来客があった時には英語ですし、社内の外国人スタッフとのコミュニケーションに

も非常に役立っています。また外資系ということもあり、フランス本社から渡される研修テキストを日本語に翻訳するという作業もしています。あと、自分が受講する外部のトレーニングも、英語環境です。コミュニケーションツールとしての語学は絶対に習得しておくことをお勧めします。言葉が話せるだけで、キャリアプランやビジネスに大きな広がり(選択肢)が出てきますよ。

——**学生時代にこんなアルバイト、またはサークル活動をしておけば良かったと思うものは？**

[W.O]モーターショーのイベントガールなど、人前で説明したり、プレゼンするアルバイトをしておけばと思うことがあります。

「人に流されず、自分で考えて進んでください。結局は自分で責任を取るしかないですからね」という言葉に力を込めるW.Oさん。出退勤は決まった時間の中で自由、1時間半にも及ぶランチではワインやシャンパンを頂いたり、外国人社員は夏期休暇で1ヶ月も不在だったりすると、改めて自分の属する会社が外資系だということに気付かされるのだとか。「上司のことも『ステファン!』とか『ジェフ!』とか、もちろん名前呼び捨てです。笑。営業マンへのトレーニングを終え『あなたの今日の自己採点は何点でしたか?』と聞く時などは、とてもやりがいを感じますね」

——今やっていることを教えてください

[K.O] オーストラリアへワーキングホリデーに行く予定のため、その準備をいろいろしています。会社を辞めることに関しては周囲からは心配の声を受けたますが、結局はこう決断しました。たしかに仕事を続けていればキャリア的には成長をしている自分が想像できます。が、自分の人生を考えた時に、やはりオーストラリアへ行くという選択肢の方が魅力的だと感じ、その道を選びました。

——就職を決めるまで、活動はどんな感じでしたか？

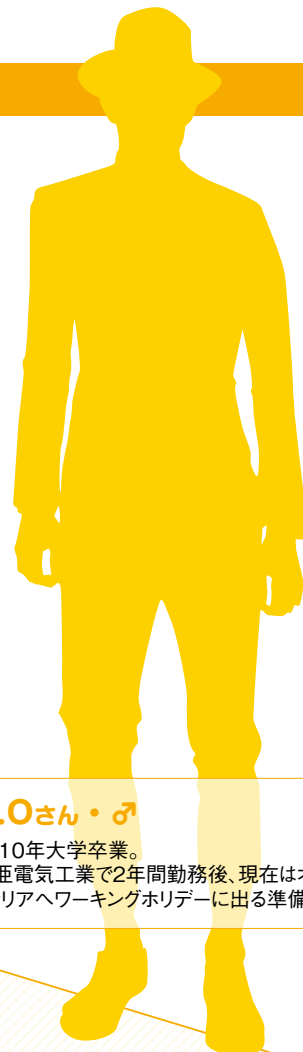
[K.O] 説明会を50社まわり、10社受けて東亜電気工業に決まりました。営業畑の担当です。就活のコツを今、僕が後輩のみなさんに言え

ることがあるとすれば、民間会社を受けるなら『その会社がどういう方法で利益を出しているのか？』を徹底的に研究することだと思います。その構造さえきっちり理解しておけば、面接官ともスムーズに話ができると思いますよ。

——仕事を始めて思ったことは？

[K.O] 営業を経験してみて感じたのは、“売ろうとするモノ”の商品知識よりも“人としての誠実さ”の方がよっぽど大切だということ。仕事をしていく上ではコミュニケーション能力とか対人関係とかが重要なポイントだなと思いました。

「帰国後どうするかはまだ考えていない」というK.Oさん。けれど、オーストラリアでの経験が次の道を切り開いてくれると、信じているようだった。



K.Oさん・♂

2010年大学卒業。
東亜電気工業で2年間勤務後、現在はオーストラリアへワーキングホリデーに出る準備中

明星大学 キャリアセンター 月吉さんのお話

——国際コミュニケーション学科は就職に有利？

いろんな経験をしている子が多いので、比較的就職を決めやすいです。

——就職難と言われているが、実際は？

高校の求人は減っていますが、大学の求人数は実は10年前から横ばい（ただし、学生の総数は増加中）、特にサービス業の求人は増加しています。卒業予定者1200名に対して4000件を越す求人がキャリアセンターに来ていますから、就職難とは言えないですね。

既卒者の就職には必ず“経験”が問われますが、新卒者は“未経験”が前提。ですから実は、新卒で就職することはそれほど難しくありません。逆にそのチャンスは生かした方がいいと思います。

——『マイコミ』『リクナビ』に載っている企業と、大学に求人がある企業、何が違うの？

『マイコミ』『リクナビ』への情報掲載は基本、お金がかかりますから、それに載っている会社は“財力がある”または“3年以内に大量に辞めるため、大々的に募集をかける必要がある”という側面があることを忘れてはなりません。

逆に、大学にくる求人は無料ですから、“高額な宣伝費をかけてまで人を募集する必要がない”または“昔からの取引先との本業（地道な仕事）に忙しく、広告にそれほど労力を割いてられない”という側面があります。やはり学生さんは華々しいところばかりを選択しがちですが、意外と質のいい会社ほど地味だったりするんですよ。

——学科の卒業生で今も交流のある人の話を教えてください

在学中、ずっとダンス同好会の活動を頑張ってきた子がいるのですが、なぜか会社との良縁に恵まれなかった。けれどぎりぎり、大学に求人があったベンチャー系フィットネスクラブを紹介し、一発合格。今は社長が最近立ち上げたクレープ屋さんで店長をやっていると、写真を送ってきてくれました。

——よく、就職と結婚は似ていると言いますが？

はい、非常によく似ています。“縁”と“相性”です。大学のキャリアセンターは、両者のマッチングをお手伝いする仲介人、お見合いの仲人さんです。就活は自分でやるのが基本ですが、内定への近道だけを考えれば、キャリアセンターの利用も一つの有効な手段です。

——企業が採る人材は？

よく、英検やTOEICの点数といった意見もありますが、やはり最終的には『人間力』だ

と思います。どれだけネットが発達しても面接をやらない会社はありませんし、結婚相手を最終的にはスペックのみで判断しないのと同様、最後の決め手は『人柄』『印象の良さ』それに尽きます。

——就職での良縁をつなぐために、学生時代にしておくべきことは？

とにかく部活でもサークルでもバイトでも趣味でも留学でも、なんでもいいので、目的をしっかりとって、何かに取り組むこと。時間が足りないくらいにいろんなことを“やって”いさえすれば、それらはすべて“ネタ”になります。当たり前ですが、“ネタ”の多い人が魅力的なのは、どこの世界でも一緒です。資格も多少は武器になりますが、それ以前にまず、自分の『人間力』を磨く。とにかく経験を積む。何かを“ヤル”。それをするのに4年間という時間はむしろ、短いくらいです。

一言指南

- 一、学生時代にいろんな経験をしておいて『人間力』を磨きましょう。
- 一、進路に迷った時には周りの人に話をしてみましょう。
- 一、いいマッチングのために、個別相談をして自己発見しましょう。

- 一、多少の失敗をしても、視野を広げて、就職活動を楽しみましょう。

- 一、必ずしも有名な会社が質もいいとは限りません。

- 一、本気スイッチが入った時に、就職は必ず決まります。

- 最後に
キャリアセンターは就職お見合いの仲人です。ぜひ利用しましょう（笑）



キャリアセンターの月吉さん

こんなこと、やりました!

2011

年度版

“フェアトレードカフェ”を授業で実現!



5/31(火)～6/2(木)の3日間、菊地ゼミの“アフリカフェア”に続き、毛利ゼミでも、途上国から輸入したコーヒー&クッキーを販売する“フェアトレードカフェ”を、大学の学生食堂にオープンさせました。

フェアトレードとは、販売業者が生産者と直接取引をして中間マージンを減らし、その分生産者に労働に見合った収入を還元する取引方法。参加した学生30名は「まず自分たちが楽しいと思える企画をする+同時にフェアトレードが何かということの人々に伝える⇒途上国の生産者にきちんと対価を支払える商取引を行ってみる」ことを目標に掲げました。学生食堂でそのような試みが行われるのは前代未聞という状況下、コーヒー 450杯分、クッキー 30個を販売。「値段は、フェアトレードの説明を聞いたお客さんの自由意志。だから一杯のコーヒーに10円から1000円まで値がつき(平均231円)ました」。

予想外の好成績で、なかには寄付をしてくれた学生までいたのだとか。学生自ら一人1500円を出資してはじまったフェアトレードカフェは結局、77000円もの収益をあげ、全額NPO法人パルシクに寄付されました。

西南大学から学生グループが来校



10月上旬、海外学術交流提携校の中国・西南大学より学生が来日。現地フィールドワークでお世話になった学科の学生ほか、中

国語を学ぶ学生らも交え、2週間の交流プログラムを行いました。

今回お迎えしたのは、李方(り・ほう)先生率いる学生10名。「日本の大学は授業時間が長いですね。西南大学は45分で昼休みは2時間半あるので、みな寮に帰って昼寝します。中国では大学構内は喫煙禁止、女子も化粧をしている人があまりいないので、ギャップに驚きました。明星大に勉強できる“個室”がたくさんあるのが羨ましいです」とメンバーの一人、孫さん。

西南大学からの学生にとって、日本で一番印象に残ったことは、“サービス”のレベルの高さ。「リムジンバスに乗り込んだ時、係員が深々とお辞儀をしている姿に、本当に感動しました。トイレの便座は温く用意されているし、機器の電池を入れるところには、電池を取り出しやすいようにシールがついている。そのきめ細やかさは、中国にはできません(笑)」

学食で行われた送別会では、西南大学の学生全員が「感恩的心」という歌を披露。別れを名残惜しそうにしつつ、学科の日本人学生らとともに、次は中国でね、と約束を交わしていました。

国際キャリア開発講座 “旅行業界編”開催



11/15(火)、学科でも就職先として人気が高い旅行業界で、会社を運営している(株)アロースター・インターナショナルの青樹真さんが来校。旅行業界で仕事をするための(社会人になるための)ポイントを、伝授してくれました。

“マニュアル人間”にならないようにしましょう! 「仕事は常に柔軟な対応が求められますから、ハンバーガーを20個購入したお客さんに、『お店でお召し上がりですか?』と言うような人(笑)にはならないようにしましょう」

企画力を磨きましょう 「商品売る側が企画力さえあれば、高い商品から売れていきます」
若いうちに海外人脈を築きましょう! 「新興国には可能性がいっぱい詰まっています。」

伸び盛りの国がどこのか。今なら2022年にワールドカップが行われるカタールのバブルが噂されていますが、旬の情報をキャッチするためには、日本の枠を越えた人脈づくりが大切です」

青樹さんは、格安チケット会社で修行を積んだ後、20代で独立&起業。現在は航空券事業を中心に、飲食から輸入業まで、そこに付随する幅の広い案件を扱っています。ゆえ、最後の質問コーナーでは、“旅行業界”そのものよりも“起業”についての関心が多く寄せられるセミナーとなりました。

英語が不得意だった学生、アフリカへ一人旅

今では軽く自分の足で世界を飛び回る、学科4年生の行木幹樹くんは、意外や意外、英語をまかきながら勉強していた高校生だった。「僕にとっての英語はずっと『勉強するもの』だった。それが学科からNZに長期留学して初めて、『英語は使うもの』、つまり単なる道具だってことに気付いたんです」。

文法が完璧でなくても、相手に伝わればオケ。現地に行ってしまうと、実際、英語を母語としない人だって多い。それに気付いたあたりから、行木くんはほぼ“感覚”で語学を習得していった。物価が安い、自然が豊富、環境が良い。そんな軽い理由でNZに留学することを選び、そこで自分の英語に自信をつけた彼は、もっとコトバを使いたくなった。

そして先生に相談して決めたのが、アフリカ一人旅。授業で勉強した『国際援助の現場』を見てみたくなり、単身渡航。ケニアのワタムという町では、偶然知り合った家族を訪問、一緒に過ごした他愛のない会話から「ただただ、いろいろ考えさせられました」。

「見なきゃわからないことは多い」と語る行木くんは、こう笑った。「旅に行くことが目的だったはずが、いつのまにか通過点になっているところが、旅の妙(笑)。全力で行けば、人は必ず進化しますね」。



Wanted

学生編集スタッフ募集中!

将来マスコミの仕事をしたい人、またはイラストなどで自己表現をしたい人、記事を書きたい人など常時募集中。企画段階から実際に形になっていくまで、全てを自分で体験できるので、とてもやりがいがありますよ。積極的な参加をお待ちしています。

これは是非載せて欲しい!の記事&情報大募集

“GRAZIE”は、学生のみなさんと作るメディアです。より充実した内容にしていけるために、どんな些細なことでもネタをお待ちしています。

〔応募先〕〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1明星大学国際コミュニケーション学科
Tel 042-591-5329またはinfo-com@eleal.meisei-u.ac.jpまで

【編集スタッフの眩き】

学科の元学生さんが、卒業して何年かたって大学に遊びに来て下さった時、「すごく芯ができたなあ」と思う時がある。表情からフワフワ感が抜けるというか、地に足がついたオトナの表情になるというか。今度はいろいろ、こっちゃんが教えてもらう番ですね(笑) ■Y